

平成 29 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

<p>新しい時代を担う英知と、豊かな人間性・創造性・社会性を身につけた人材の育成</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 将来を支える学習指導の充実 2. 魅力ある学校生活の創造 3. 将来を支えるきめ細やかな生徒指導 4. 人権感覚豊かな人格の育成 5. 地域に愛される学校
<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会の一員である意識を高く持ち、社会に主体的かつ積極的に参加し貢献する力 2. 柔軟な発想で、新たな課題に意欲的に取り組む力 3. 自らの考えを的確に伝えるとともに、他者や異文化を理解し、相互理解に結び付けるコミュニケーション力 4. 将来の夢と希望を持ち、実現までのキャリアビジョンを自ら設定する力 	

2 中期的目標

<p>1 学力・夢を実現する力の育成</p>	<p>緑風冠高校の3年後</p>
<p>(1) 組織的な授業改善の推進 (2) 新たな指導方法への変換 (3) 進路を実現できるカリキュラムの作成 (4) キャリア教育の推進 (5) 講習・補習・外部模試の計画的な実施 (6) 就職希望者への支援</p>	<p>①「主体的、対話的で深い学び」を取り入れた授業 全教員で実施 93 ②ICTを活用した授業 全教員で実施 88 ③学力向上満足度 59%⇒75% 59 ④進路や生き方に関する機会の提供の肯定 72%⇒80% 78 ⑤授業満足度 70%⇒80% 78 ⑥就職内定率 100% 100 ⑦生徒の学校規律の肯定 87%⇒90% 88 ⑧生徒遅刻数1500件以下 1686 ⑨保護者の生徒指導満足度 67%⇒75% 71 ⑩友人に関する肯定 79%⇒85% 83 ⑪生徒のクラス活動学校行事の参加に関する肯定 81%⇒90% 83 ⑫保護者学校との連携満足度65%⇒75% 71 ⑬共生推進教室入学希望者数の確保 補充選抜4名出願 ⑭保護者学校の満足度78%⇒85% 88 ⑮教職員の教育活動の評価と次年度への計画に関する肯定 46%⇒60% 47 ⑯教職員の組織の連携に関する肯定度37%⇒60% 33</p>
<p>2 保護者・地域から信頼される安全で安心な学校づくり (面倒見のいい学校)</p>	
<p>(1) 生徒の規範意識の醸成 (2) 安心できる人間関係の構築 (3) 行事、生徒会活動、部活動等における生徒の自己有用感の醸成、学校への帰属意識 (4) 保護者及び地域との連携</p>	
<p>3 とともに学び、ともに育つ教育の実践</p>	
<p>(1) 障がいのある生徒の自立を支援</p>	
<p>4 学校力の向上</p>	
<p>(1) 学校経営計画推進に向けPDCAサイクル推進 (2) 各組織のリーダーのマネジメント能力の向上 (3) 教職員研修の充実を図り教師力の向上 (4) 学校の広報と情報発信の充実、ICT環境の整備</p>	

(平成 28 年度実績⇒平成 31 年)
 ③④⑦⑨⑩⑪⑫⑭⑮⑯は、学校教育自己診断、
 ⑤は、普通科総合選択制アンケートによる。
太字 平成 29 年度実績

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 29 年 11 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>1 学力・夢を実現する力の育成 【生徒】 「進路実現のために必要な学力が身についた」58.7%(1.1%減) 「進路指導に応じて選べる「エリア」、選択科目が多い」81.7%(2.6%減)</p>	<p>第1回 (7月21日) ・普通科専門コース発展に向けて、今までの経験や取り組みを活かしながらどう取り入れるかが大切。誤解が生まれないように説明することが求められる。</p>

府立緑風冠高等学校

<p>「自分の進路や生き方について考える機会がある」77.6%(5.1%増)</p> <p>【保護者】 「授業はわかりやすいと言っている」59.1%(3%増) 「進路や職業など情報を提供し、きめ細かな指導を行っている」73.3%(21.8%増)</p> <p>【教職員】 「コンピューターや視聴覚機器が各教科の授業で活用されている」80.3%(21%増) 「興味・関心、適性に応じた進路選択ができるよう、系統的なきめ細かい進路指導を行っている」63.6%(0.6%増)</p> <p>学力がついていると実感がないが保護者には「授業はわかりやすい」と伝えている。進路や生き方など考える機会の数値が増加し、進路実現についての意識を学習に結び付けるようにする。ICTの活用や「主体的、対話的で深い学び」など授業改善は進んできている。「わかりやすい授業」に向け引き続き取り組むとともに外部模擬試験を推奨するなど自身の学力について客観的に図り、課題を明確にするとともに自信もつけさせたい。</p> <p>2 保護者・地域から信頼される安全で安心な学校づくり (面倒見のいい学校)</p> <p>【生徒】 「学習規律や生活規律などの基本的習慣の確立に力を入れている」75.9%(1.1%増) 「学校の規則を、きっちりと守っている」88.1%(1%増) 「生徒会活動や各種生徒委員会の活動に協力できている」51.5%(4.8%増) 「クラス活動や学校行事(体育大会、文化祭など)に積極的に参加している」82.6%(1.6%増) 「学校には何でも話せる友達がいる」82.7%(3.4%増) 「先生は、いろんな悩みやいじめなどの相談に親身になって応じてくれ、真剣に対応してくれている」70.1%(11.7%増)</p> <p>【保護者】 「学校の生徒指導の方針に共感できる」70.7%(3%増) 「文化祭・体育大会に、子どもは積極的に参加している」88.8%(1.8%増) 「子どもは、心身の健康、友人関係、いじめなどの悩みに、親身になって応じ、真剣に対応してくれている」66.9%(16.9%増) 「学校は、保護者の相談に適切に応じてくれている」71.3%(6%増) 「学校は、生徒の人権を尊重する意識を育て、社会のルールを守る態度を養おうとしている」75.4%(4%増) 「学校は、懇談や連絡文書などを通じて意志疎通を十分に行っている」67.4%(1.7%増)</p> <p>【教職員】 「いじめ(疑いを含む)などの問題が起きた際の体制が整っており、迅速に対応することができる」65.1%(26.2%増) 「様々な問題行動の防止のための早期指導に学校全体で心がけている」65.2%(18.9%増) 「カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導を行っている」59.1%(16.5%増) 「ホームルーム活動の改善に、クラスや学年、学校全体で取り組んでいる」53.0%(3%増) 「学校行事が、生徒にとって魅力あるものとするために、工夫・改善を行っている」78.8%(2.9%増) 「生徒会活動を通じて、生徒が主体的に活動できるよう学校全体で支援している」57.5%(0.1%増) 「生徒が達成感を得られるよう、部活動の活性化について工夫している」56.1%(16.2%減) 「教育相談体制が整備されており、生徒は学級担任以外の教員とも相談することができる」66.7%(1.8%増) 「生徒指導において、家庭との緊密な連携ができている」86.4%(25.2%増) 「保護者や地域の人々と接する機会を多く持っている」31.9%(1.5%減)</p> <p>生徒指導や教育相談の数値は増加している。今後も生徒の規範意識の醸成に努めるとともにカウンセリングマインドを持って生徒指導にあたり安全安心な学校づくりをめざす。</p> <p>3 ともに学びともに育つ教育の実践</p> <p>【保護者】 「学校の雰囲気が良く、生徒が生き生きとしている」87.8%(9.4%増) 今後も「ともに学びともに育つ」教育を実践するとともに、進路実現を図り、安心して共生推進教室に希望してもらえよう広報活動を充実する。</p> <p>4 学校力の向上</p> <p>【保護者】 「学校のホームページや校長ブログを見て情報を得ている」36.6%(1.7%増) 「この学校の施設、設備は学習環境の面で満足できる」68.2%(6%増)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・2年から専門コース・総合系と分かれるが、今後、生徒にコース・総合系を決定する材料の提供が必要。迷っている生徒のフォローも大切になってくる。 ・専門コースの成果指標としては、想定人数からすると目標が難しい。 ・共生推進教室は、今年度が初の卒業生となる。進路については、今後の信頼に大きくかかわる部分なので是非よろしく願います。 <p>第2回 (11月21日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICTを授業で使わないといけないのか、授業の助けになっているのか。 ・ICT機器の活用は、手助けになる。それとアクティブラーニングとは別の問題である。 ・2つの専門コース、総合系に分かれて学習すると将来の進学先や職業等を明確に打ち出して説明したほうがよい。生徒がイメージしやすい。 ・専門コース・総合系に分かれて学習するが、キャリアガイダンスを丁寧に行うことが大切。卒業後の進路も説明しながらガイダンスをしっかりと行うことを売りにしてほしい。 ・魅力ある学校づくりのためには、今回コース制になったことで出口が変わるということは重要。出口が見える。それには授業、家庭学習をどうさせるか。ICTの活用は目的ではなく手段、ICTというツールを使って深い学びをいかに実現するかこれを今後研究する必要がある。 <p>第3回 (2月22日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緑風冠から就職してきている生徒は、先輩後輩の仲もよく素直である。何をしなければいけないのか明確にしている。それが学校教育自己診断でも数字として出ている。元気であいさつをきちんとする、仕事を覚えるのも早い。高校では無遅刻無欠席であった。 ・「緑風冠」開校から10年、関わる立場によって見方は変わるが、ブランドイメージを確立することは非常に大事。 ・生徒指導は、「上から言うのではなく話し合いを通じた指導、遅刻のない生徒が大多数」との説明があった。これは、生徒指導もしっかりできていると判断してよい。また、生徒はルールを守っているとの質問の数字で上がってきている。学校全体が落ち着いていることは、学校のしっかりとした売りである。先生の面倒見がよいと自然と信頼も上がってくる、それに成績もついてくる、これから緑風冠に求められることは今やっている良いところをさらに伸ばしていき、学校説明会等でそのことをアピールすることである。 ・保護者としても安心・安全が大事。子どもたちが平穏無事で学校生活を送れる環境が一番。 ・社会で人の役に立つ、心がわかる人間を育てるという目標。この学校でまかせて3年間過ごすことができるという保護者のイメージも大きい。また、来年からコース制となり自分の努力で緑風冠に行けば難関大学に行けるという前提が見えてくれば生徒も前向きになれる。さらに卒業生を活用するなどの土壌作りも行い緑風冠ブランドをして作り上げていってもらいたい。
--	--

<p>【教職員】</p> <p>「本校の教育課題について、教職員で日常的によく話し合っている」 54.5% (13.7%増)</p> <p>「教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に生かしている」 47.0% (0.7%増)</p> <p>「校長は、自らの教育理念や学校運営についての考え方を明らかにしている」 60.6% (6.9%増)</p> <p>「各分掌や各学年、校種間の連携が円滑に行われ、有機的に機能している」 33.3% (3.7%減)</p> <p>「校内研修は、教育実践に役立つような内容となっている」 46.9% (12.4%減)</p> <p>PDCA サイクルによる学校運営をさらに進めるとともに校内における連携が進むよう情報共有に努める必要がある。また、普通科専門コース、共生推進教室の広報や学校の様子など積極的に外部や保護者に情報発信を行う。</p>	
---	--

府立緑風冠高等学校

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 学力・夢を実現する力の育成	<p>(1) 「わかる授業」をめざした授業改善</p> <p>(2) 新たな指導方法の推進</p> <p>(3) 専門コース設置におけるカリキュラムの作成</p> <p>(4) キャリア教育の推進</p> <p>(5) 講習・補習・模試の計画的な実施</p>	<p>(1) 指導教諭を中心に、教務部担当、教科代表による「授業力向上委員会」を置き、年2回の校内授業研究週間、生徒授業アンケートを実施し、授業改善を推進。</p> <p>(2) 各教科で「主体的、対話的で深い学び」を取り入れた授業やICTを活用した授業研究に取り組み、各教科で研究し、「授業力向上委員会」で課題把握と成果検証を行い、全教員で情報共有。</p> <p>(3) 教務部が中心となり平成30年度入学生における進路実現に対応できるカリキュラム、シラバスを各教科が作成</p> <p>(4) きめ細やかな進路に対応できるように、丁寧なエリアのガイダンスの実施。</p> <p>(5) 進路指導部を中心に講習・補習・模試の計画を立案、実施。</p>	<p>(1) 生徒授業アンケートにおける加重平均（平成28年度3.07%）を3.1以上年2回公開授業及び研究協議の実施</p> <p>(2) 「主体的、対話的で深い学び」やICTを活用した授業を全員が2学期終了までに1回実施</p> <p>(3) 進路実現に対応できるカリキュラム作成を年度内に完成</p> <p>(4) 普通科総合選択制アンケートにおけるエリアガイダンス満足度（平成28年度66.5%）を77%</p> <p>(5) 外部模試の受験者数（平成28年度延べ406人）を昨年度より増加。</p>	<p>(1) ・授業アンケート結果3.13(○) ・6・11月校内相互評価授業実施 ・10月教育センター指導主事を招き授業力向上研修実施 今後もわかりやすい授業となるよう更なる授業改善をめざす。</p> <p>(2) ・主体的、対話的で深い学び93.3%(○) ・ICTの活用88.3% ・10月教育センター指導主事を招き授業力向上研修実施（再掲） ・4、11月ICT実践報告校内研修実施 「主体的、対話的で深い学び」の実現に向け校内研修を実施するなど新たな指導方法の推進を図る。</p> <p>(3) ・コース・系のカリキュラム完成(◎) 平成30年度入学生に向けコース・系について丁寧に説明し進路実現を図る。</p> <p>(4) ・エリアガイダンス満足度86.8%(◎) 平成30年度入学生に向けコース・系について丁寧に説明し進路実現を図る。（再掲）</p> <p>(5) ・来年度に向け進路指導部が学力向上計画作成 ・外部模試受験者1744人(◎) コース設置に向け今後も進路指導部、教科、学年が連携し講習及び外部模試も通じて夢を実現する力を育成する。</p>
2 保護者・地域から信頼される安全で安心な学校づくり	<p>(1) 生徒の規範意識を醸成</p> <p>(2) 支援体制、教育相談体制の充実</p> <p>(3) 特別活動等を通じた生徒の自己有用感の醸成と、集団への帰属意識の向上</p> <p>(4) 保護者及び地域との連携</p>	<p>(1) 教員による登校時の校門立番を継続 教員による登下校時の自転車マナー指導を継続 薬物乱用防止教室の実施</p> <p>(2) 要支援生徒について支援教育コーディネーター、担任等が連携し支援体制の充実 教育相談委員会、担任、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーが連携し教育相談体制の充実</p> <p>(3) 担当の分掌、顧問による働きかけの充実や強化による委員会活動、生徒会活動、部活動の充実</p> <p>(4) 保護者、地域への情報発信の充実 保護者向けメール配信の構築 地域の事業参加、中学校との交流</p>	<p>(1) 遅刻数の削減（平成28年度1865件） 自転車マナー苦情件数（平成28年度6件）を昨年度より減少</p> <p>(2) 生徒向け学校教育自己診断の教育相談に関する項目における満足度（平成28年度58.4%）を70%</p> <p>(3) 生徒向け学校教育自己診断におけるクラス活動学校行事参加の肯定（平成28年度80.1%）を85% 部活動加入率（平成28年度62.5%）を65%</p> <p>(4) 保護者向け学校教育自己診断学校保護者との連携満足度（平成28年度65.3%）を70% 中学生向け学校説明会参加者を増加させる（平成28年度816人）。</p>	<p>(1) ・遅刻指導や遅刻削減に関する取り組み（遅刻ゼロチャレンジウィーク等）、薬物乱用防止教室や自動車教習所と連携した交通安全指導実施 遅刻件数1686(◎) ・自転車マナー苦情件数5件(◎) 様々な指導を通じて保護者・地域から信頼される学校づくりを行う。</p> <p>(2) ・8月スクールカウンセラーによる教員研修 ・12月人権擁護士による人権研修 ・教育相談に関する項目における満足度70.1%(◎) 生徒が安心して教員に相談できる体制を継続することで、安心して学校生活を送れるよう支援する。</p> <p>(3) ・クラス活動学校行事参加の肯定82.6%(△) ・部活動加入率58.9%(学年別62.5%, 55.7%, 58.4%)(△) クラス活動、学校行事は肯定率も上がり成果が見られたものの目標に達しなかった。また、部活動においても加入率が達成できなかった。部活動の定着を図ることができるよう部活動説明会等をとおして生徒にアプローチする。</p> <p>(4) ・保護者との連携(相談)満足度71.3%(◎) ・中学校訪問、地域における学校説明会の参加や本校での学校説明会、北河内地区進路指導協議会においても学校説明を実施 ・学校説明会参加者：763名共生推進教室学校説明会参加者：119名(昨年度84)。(△) ・地域医療機関等の事業参加を通じて地域中学生との交流 今後は、改編についての特色をさらに周知して説明会参加者の増加をめざす。</p>

府立緑風冠高等学校

3 ともに学び、ともに育つ教育の実践	(1) 共生推進教室生徒の自立支援	(1) 個別の教育支援計画に基づいた自立を支援する教育の推進 卒業後の進路実現に向けた職場実習等のキャリアガイダンスの充実 障がい者理解教育の促進	(1) 共生推進教室3年生の進路実現 共生推進教室委員会を月1回程度開催 むらの高等支援学校と生徒交流を実施 選拔出願者を3人以上にする	(1) ・3名とも進路の方向性を確認し、進路実現に向け試験等受験(◎) ・むらの高等支援との交流は日程等の関係で未実施(△) ・選拔出願者 0名 補充選抜実施 むらの高等支援との交流を図るとともに学校説明会、中学校訪問等でさらに共生推進の取り組みの周知を図る。
4 学校力の向上	(1) PDCAサイクルの推進 (2) 各組織のリーダーのマネジメント能力の向上 (3) 教師力の向上 (4) 情報発信の充実	(1) 更なる自己申告票におけるPDCAサイクルの浸透 (2) 各組織のリーダーにおける学校経営計画推進に向けたPDCAサイクルにおける取り組み (3) 教職員研修の充実 人権教育研修の推進 ミドルリーダーの育成 個人情報の適正な管理を推進 (4) ホームページ等における広報の充実。改編に向けた学校案内の作成	(1) 学校教育自己診断における教職員の教育活動の評価と次年度への計画に関する肯定(平成28年度46.3%)を50% (2) 学校教育自己診断における教職員の教育活動の評価と次年度への計画に関する肯定(平成28年度46.3%)を50%(再掲) (3) 学校教育自己診断における教職員の校内研修における項目の肯定(平成28年度59.3%)を65% (4) ホームページの更新(週4回) 7月までに学校案内を完成	(1) ・教育活動評価と次年度への計画47.0(△) 特に年度当初や年度末にPDCAサイクルによる学校運営を意識できるよう職員会議等でさらに周知する。 (2) ・学校経営計画に関する各分掌の取り組みに関するシートを作成しPDCAサイクルを意識、教育活動評価と次年度への計画47.0(△)(再掲) 各組織のリーダーは、学校経営計画推進に向けPDCAサイクルに基づき学校運営を実施。各組織が更なるリーダーシップを発揮し、来年度の改編等の学校運営がスムーズにスタートできるようにする。 (3) ・校内研修における項目46.9%(△) ・8月スクールカウンセラーによる教員研修(再掲) 10月教育センターによる授業力向上研修(再掲) 12月人権擁護士による人権研修(再掲) 校内研修の実施については時期を早め実施するとともにミドルリーダーの育成については、外部研修等も活用する。個人情報の管理は、今後も会議等において機会があるごとに徹底する。 (4) ・学校説明会参加者：763名共生推進教室学校説明会参加者：119名(昨年度84)。(再掲) 北河内進路指導協議会や大東市中学校から学校説明会の依頼もあり学校案内も完成し積極的に広報。(◎) ・ホームページ：校長ブログ等各記載項目を随時更新。週あたり5.2回(◎) 普通科専門コース、共生推進教室について広報するとともに今後も学校の様子など保護者も含めて積極的に情報提供を行う。